

令和 6 年度 政策討論会 第 3 分科会（第 2 回）要点記録

・日時 令和 6 年 8 月 7 日（水）

・場所 第 1 委員会室

・会議時間 10：00～10：55

・出席者

中井 良介（座長）

井舎 英生（副座長）

藤原 豊和

海老原 友子

倉田 賢一郎

殿本 マリ子

南 加代子

友永 修 （座長、副座長以下は議席番号順）

・議事内容

1. 討論テーマ「岸和田市各地域の文化資源の発掘と活用について」における各自の問題意識や課題など意見を出し合った。

2. 次回の討論会日程は 9 月 27 日（金）10 時～とし、学校副読本を参考にするなどし、本市の現状把握をしていく予定。

・発言要旨 各議員の発言内容は、以下のとおり。

●友永議員

・今回のテーマにおいて、討論の方向性が明確になっていないことから、最終的に何を提言・提案するのかが不明である。自身の勉強不足もあるが、国指定や府・市指定の有形・無形文化財について、指定に至った経緯やその歴史等についても理解しきれていないのが現状である。そのため、市内の文化財をもっと市民の方に知ってもらうために周知するべきとの意見は理解できる。

・岸和田市は、海から山まで各地域（村）独自の風習・風土がある。他の議員から、「その土地の食文化」や「満月の夜の月見」など学校では習わない郷土文化の意見が出された。このような、その土地の伝統というか風土について、子どもたちへ伝えていけるような取り組みにつなげはどうか。教育委員会への提言・提案としてはどうかと考える。

●南議員

・地域では、子ども達が年一度のお月見に「つかせて」と、地域内を回る風習が今もある。昔はお団子を食して帰る風習があったようだが、現在では駄菓子が各家庭で用意され、子ども達におすそ分けされている。これは、十五夜になるとウサギが餅つきをするといった昔ばなしもあるように、各家庭で月を愛でながら自然を楽しみ会話も進むという事にも繋がるようだ。子ども達が地域で健やかに育ってほしいという願いとともに、地域内では老若男女問わず又、旧家から新興住宅まで同様に子ども達の声が聞こえることから、この風習により地域のコミュニケーションとなり生かされていのではないか。

・子ども達は、地域の郷土愛につながる文化資源を授業で研究している。その中では、郷土食であったり、祭りに食するものであったりこの料理が並ぶと地域を思い出すといったことも学び、自ずと郷土愛を育むことができてくるのではないか。今回のテーマについて、教育と結びつけられるきっかけを創出できる文化資源の発掘ができればと考える。

●海老原議員

- ・「観光」を避け、他の分科会との差別化を図ることは難しいかと思ったが、提示資料を見て、思った以上に文化財がある事に驚いた。文化資源を発掘するというテーマは掘り下げるることもできるし、面白いと思う。
- ・「だんじり」だけではない岸和田の魅力再発見で、郷土愛を子どもたちに持つてもらいたい。教育に活かせられたらいい。

●倉田議員

- ・テーマは決まっているが、目指す方向性のようなものが定まっていないように思う。提言を作るためには、まず方向性について議論すべきではないか。
- ・地域に埋もれている文化等を政策討論会のメンバーで発掘することをメインにするのではなく、あくまでも行政に対して政策を提言することを主眼に置いて議論すべきだと思う。

●藤原議員

- ・岸和田市における文化的側面での特徴を考えると、祭礼団体やそれに関係する町会組織など、祭礼実施にあたっての運営の仕組みや組織については他自治体の祭礼の見本になることもあり、岸和田市の文化的な特徴だと考える。また、じゃこ、なすびやかしみん、かんとだきなどの食文化にも特徴があると考える。
- ・まずは本分科会においてのアウトプットの方向性を決めてから、そこに向けて必要

なインプットなど今後の分科会の活動内容を決めたほうが良いのではないか。

●殿本議員

- ・国登録文化財 指定文化財を岸和田市民にしっかりと周知することが大事である。
また、地域にある観光資源の発掘をすることが重要。
- ・風土、風習を調べる。
- ・どんな内容を結論づけるかを考えていかなければならない。
- ・岸和田市にとって、この討論がどう活かせるか？

●井舎議員

- ・地域のさまざまな生活文化を出し合っていくのも良いと思う。

●中井議員

- ・地域のモノ（文化）を出し合っていく。
- ・次回は、子どもたちが学校で地域の勉強をしているため、それに関して話をしましょ。

以上